

# 筑後川流域景観テーマ協定

平成21年5月

筑後田園都市推進評議会  
筑後川流域景観協議会・準備会



# 目 次

序 目的と役割 -----	2	4 実現に向けた取り組み -----	18
0.1 目的		4.1 ルールづくり	
0.2 役割		4.2 活動の推進	
0.3 対象区域		4.3 個性的な地区の景観まちづくり	
4.4 仕組みづくり			
1 テーマ -----	4	資料編 -----	21
美しい大河に抱かれた実りと彩りをつなぐ景観まちづくり		資料1 協働して守り育てる景観	
2 目標像 -----	5	資料2 テーマ協定検討のプロセス	
2.1 潤いと安らぎを与える「河川景観」			
2.2 雄大さを感じさせる「山並み景観」			
2.3 四季の彩りと人々の営みが醸し出す「田園景観」			
2.4 歴史と文化が織り成す「歴史街道景観」			
3 基本方針 -----	8		
3.1 絵になる景観を守り育てる			
3.2 潤いのある景観を守り育てる			
3.3 歴史を物語る景観を守り育てる			
3.4 四季や時間の移ろいによる景観を守り育てる			
3.5 緑の道でつながる景観を守り育てる			

# 序 目的と役割



## 0.1 目的

福岡県と筑後地域の16市町村で構成する筑後田園都市推進評議会は、平成15年に『筑後ネットワーク田園都市圏構想』を策定し、筑後地域の景観の保全・形成に取り組んでいます。

筑後地域の中でも、特に、雄大な自然が残る筑後川流域には、筑後川をはじめ、耳納連山、水郷田園、歴史街道など多様な景観を望むことができます。こうした景観は、人々の営み、治水・利水、生態系、歴史、文化、伝統産業など様々な点でつながりを持っています。自然や流域の人々と共に育まれてきた共有財産ともいえる景観を保全・形成するため、地域団体・NPO、市町、県、国の関係機関等が協働して取り組む指針として締結するのが、この『筑後川流域景観テーマ協定』です。

この「協定」は、「筑後景観憲章」を踏まえた筑後川流域の景観まちづくりを推進する方策を定め、個性豊かで美しい景観を誇りを持って次の世代に継承することを目指すものです。

## 0.2 役割

この協定は、景観まちづくり\*のテーマ、目標、基本方針を定め、筑後川流域の景観まちづくりを総合的に進めるためのマスタープランとしての役割を担います。また、市町が推進する独自の取り組みを後押しするものでもあります。

今後、筑後川流域景観を広域的に保全・形成するため、この協定を基に、景観法を活用した「筑後川流域景観計画」の策定に着手します。

(久留米市においては、既に景観行政団体として景観計画の策定に着手しています。)

\*「景観まちづくり」とは、自分たちの地域の景観の魅力を楽しみ、貴重な資産として次世代に残せるように、わがまちの景観を維持・継承・改善するための様々な取り組みです。

## 0.3 対象区域

『筑後川流域景観テーマ協定』の対象区域は、筑後川流域の久留米市、大川市、小郡市、うきは市、大刀洗町、大木町、広川町の7市町です。

これらの区域は、河川、道路、山並み、田園等の広域にわたる景観要素を共有すると同時に、歴史的、文化的な観点からも相互に関係を持つ区域です。

筑後川流域景観テーマ協定の対象区域



### 【筑後川流域の概要】

#### ●大河が創り出した地形と人々の暮らし

筑後川は、熊本県の瀬の本高原を源に、大分県の山間盆地を流下し、大分県と福岡県の県境にある夜明峡谷を抜け、巨瀬川、宝満川等多くの支川と合流しながら、肥沃な筑後平野を貫流して有明海に注ぐ、全長約140kmにおよぶ九州最大の一級河川です。悠然と流れる筑後川や宝満川と、「屏風山」と呼ばれる耳納連山など周囲の山並みにより、雄大な景観が作りだされ、河口付近では干満差の大きい有明海の潮汐作用による遠浅の干潟など独特の地形が創り出した景観を望むことができます。

また筑後川は、古くから洪水と干ばつを繰り返した歴史がある一方、田畑を潤す貴重な水源であり、人や物資の交通手段として水運が発達するなど、人々の暮らしと密接に関わってきました。

#### ●豊かな自然と多様な生態系

筑後川の中流域では、瀬や淵、河原等に多様な動植物が生息するなど、豊かな自然景観を望むことができます。下流域では、有明海の潮汐の影響を受け約23kmに渡り淡水と海水がまじりあう汽水域が広がり、筑後川固有の魚類やヨシ群落等の生息地として独特な環境を育んでいます。また、内陸に張り巡らされた掘割（クリーク）では、数多くの貴重な植物や魚類、鳥類などが生息し、多様な環境を育んでいます。

耳納連山北麓や隈上川上流の山中では、ヤマザクラや榎の木などの落葉樹が自生し、春や秋には彩り鮮やかな景観を見ることができます。

# 1 テーマ



## 美しい大河に抱かれた実りと彩りをつなぐ景観まちづくり

「美しい大河」である筑後川は、筑後平野を流れ大地を形づくり、人々に様々な恵みを与えてきました。また宝満川をはじめ巨瀬川、小塩川、陣屋川、広川など、数多くの美しい支流がその大河に注ぎ合流しています。

「実り」の景観は、筑後川流域に広がる山林や里山、田園で、自然と人々の営みによって繰り広げられてきました。その恩恵は、集落やまちにもたらされ新たな産業を興し、様々な地域の個性的な文化を育みました。それらは各地の神社仏閣や酒蔵など歴史的な建造物や伝統工芸などに見ることができます。

「彩り」の景観は、季節の移り変わりと共に筑後川流域の各地で見ることができます。桜並木、麦秋、榎並木、樹氷など自然の営みが創り出す景観。各地域それぞれの五穀豊穡、無病息災を祈る祭りや行事など人々の営みと文化が創り出す景観。それらが流域に多彩な彩りをもたらしています。

また川面や湖面の煌く夕暮れの光景や山々を覆う白い雲など、時の移ろいや気象の変化によって、筑後川流域の景観は様々な様相を見せてくれます。

時代の流れとともに、私たちは便利さを追求し、工業化、都市化を進めてきました。と同時にかけがえのない筑後の美しい景観を危うくしています。

私たちは、そうした「美しい大河」によって抱かれてきた「実り」と「彩り」の景観をかけがえのないものとして将来へとつなぎ、後世へと継承していきます。そのために、筑後川流域の地域どうしがつながり、人と人がつながる景観まちづくりを推進していきます。

# 2 目標像



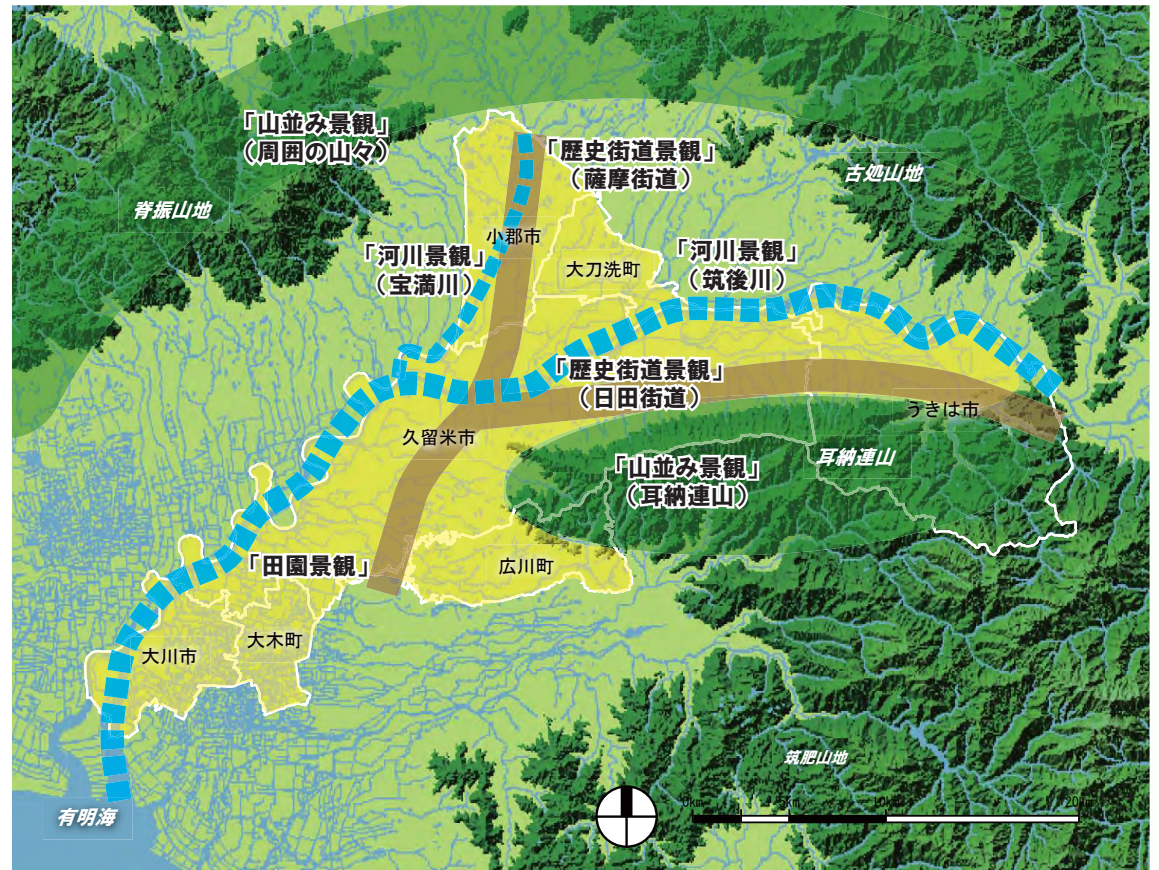
筑後川流域では、筑後平野\*を悠然と流れる筑後川を中心に、自然と共生しながら人々の営みが繰り返られ、同時に自然と調和した個性豊かな地域文化に彩られた景観が展開されてきました。

そうした筑後川流域において、以下の4つを目標像に掲げ、「美しい大河に抱かれた実りと彩りをつなぐ景観まちづくり」を実現していきます。

## 【4つの目標像】

- 2.1 潤いと安らぎを与える「河川景観」
- 2.2 雄大さを感じさせる「山並み景観」
- 2.3 四季の彩りと人々の営みが醸し出す「田園景観」
- 2.4 歴史と文化が織り成す「歴史街道景観」

\*ここで記載する筑後平野は、対象区域の筑後川流域の田園が広がる平地を示しています。



## 2.1 潤いと安らぎを与える「河川景観」

九州一の大河である筑後川は、流域に恵みをもたらすとともに「筑紫次郎」と呼ばれ、古くから畏敬と親しみを地域の人々に与えてきました。

上流域では瀬や淵など多様に変化する河川の姿と、周囲の自然とともに創り出す潤いある景観を目にすることができます。また、市街地近郊の中流域では、河川沿いの公園等において地域の人々が憩い、躍動する姿が見られます。下流域では、有明海の干満により葦や水鳥など多様な動植物が生息し、豊かな自然景観が広がっています。

北から緩やかに蛇行しながら流れ、筑後川に合流する宝満川では、水鳥や水辺の木々とともに安らぎのある景観を所々に見ることができます。

こうした、上流から下流にかけて多様に変化する景観を有しながら、流域の人々に潤いと安らぎを与える「河川景観」を目標像とします。



筑後川



宝満川

## 2.2 雄大さを感じさせる「山並み景観」

筑後川と並行して東西に連なる耳納連山は、屏風にたとえられる特徴的な稜線を形成しており、雨の後に立ち上る水蒸気や、朝夕の陽射しによる陰影など、刻々とその姿を変える景観を絶えず見せてくれます。

また、広大な田園では、耳納連山の他にも脊振山、宝満山、古処山、筑肥山地が遠望でき、南の有明海を挟んで遥か遠くには多良岳、普賢岳を望むことができるなど、雄大なパノラマ景観が360度展開しています。

こうした筑後川流域の大景観を象徴し、その雄大さを感じさせる「山並み景観」を目標像とします。



筑後川中流域からの耳納連山の山並み



筑後川下流の田園からの耳納連山への遠望



## 2.3 四季の彩りと人々の営みが醸し出す 「田園景観」

広大な田園が広がる筑後平野では、様々な農業が営まれ、季節とともに多様で魅力的な景観を見ることができます。春の田植えや菱採り、黄金色の麦秋、葡萄や柿の色鮮やかな果樹園、彼岸花が咲き乱れる棚田など、四季折々に彩り鮮やかな景観が広がっています。また、先人達の知恵や努力により筑後川から引かれた水路は集落やまちなかでは疎水となり、下流域では田畑を潤す掘割（クリーク）となって、各地域で営みの景観を創り出しています。それらは、地域の人々が筑後川の清流と豊かな緑の恵みを楽しみながら、自然との調和を図り、たゆまぬ営みを繰り返し維持してきた結果の景観でもあります。

こうした四季折々の彩りと人々の営みが醸し出す「田園景観」を目標像とします。



秋の棚田の風景（うきは市）



菱採り（大木町）

## 2.4 歴史と文化が織り成す 「歴史街道景観」

古くから栄えていた筑後川流域では、多くの古墳が点在し、悠久のロマンを現在に伝えています。また交通の要衝でもあり、南九州へ向かう古道や近世に発達した街道では、歴史的建造物や地域の祭りや行事等により、往時の姿を窺うことができます。

また、江戸時代に整備された薩摩街道や日田街道等のかつての宿場町では、人々の往来と共に様々な産業が興り、それぞれに個性的な町並みが形成され、個性豊かな祭りや行事も育まれました。

こうした歴史と文化が織り成す「歴史街道景観」を目標像とします。



本郷の歴史的町並み（大刀洗町）



風浪宮裸ん行（大川市）